17. 各種実験腫瘍における ^{67}Ga-citrate の取り込みについて——形態的検討——

白井 茂夫 檀浦龍二郎 菊池 茂
森田誠一郎 大竹 久 (久大・放)

^{67}Ga-citrate の腫瘍部への取り込みについて，3′-Me-DAB 肝癌，エールリッヒ腫瘍および sarcoma 180 の3種の動物腫瘍を用いて実験を行った．^{67}Ga-citrate を動物腹腔内注入48時間後に全身および腫瘍部マクロオートラジオグラムを作成し，各種染色を施した腫瘍部の病理組織標本と形態的に比較検討した．その結果，^{67}Ga-citrate の取り込みは腫瘍細胞のある部位に強く見られ，腫瘍細胞の密な部位により強かった．壊死の範囲が大きい部位の取り込みは弱かった．エールリッヒ腫瘍と sarcoma 180 では，腫瘍内あるいは腫瘍周囲の肉芽組織の大きいところにも強い取り込みが認められ，これら肉芽組織には好中球などの炎症細胞を伴っているものが多かった．

18. NSE (neuron-specific enolase) RIA キットの検討

桂木 誠 一矢 有一 桑原 康雄
和田 誠 綾部 善治 松浦 啓一
(九大・放)
馬場 裕子 (同・中放)

神経原性腫瘍のマーカーとして注目されている NSE 測定用 RIA キット(栄研)の基礎的および臨床的検討を行った．基礎的検討では，日差再現性において，C. V. が低から高濃度域で 10～15% 程度のばらつきがみられたもののおおむね良好な結果が得られた．本キットでのコントロール群の測定値は成人で，4.6±1.5 ng/ml (Mean±S. D., n=78)，小児で 12.7±6.4 ng/ml (Mean±S. D., n=28; 0～10 歳)であった．成人で10，小児で30をカットオフ値として臨床例の検討を行った．肺小細胞癌で 64% (7/11)，神経芽細胞腫で 50% (3/6) の陽性率であった．上昇例には進行例が多かったが，NSE はこれらの疾患の診断や経過観察に有用と思われた．

19. 肺癌における NSE 栄研 Kit の検討

岩崎 宏司 計屋 慧實 千葉さおり
町田由美子 木下 博史 (長崎大・放)

1965年 Moone らによって発見された Neuron Specific Enolase (以下 NSE) は健常人血清中にはごく微量しか存在しないが，中枢神経組織の破壊や神経内分泌細胞由来の腫瘍のうち，特に神経芽細胞腫および Oat cell 型の肺小細胞癌で血中に増加するとされている．今回われわれは栄研 ICL 社の NSE 栄研 Kit を使用して，肺小細胞癌における NSE 値を検討したので報告した．
[結果] 本 Kit の再現性，回収試験および希釈試験の結果は良好であった．健常人 38 例の平均値は，6.0±1.6 ng/ml であり cutoff 値を 10 ng/ml とした．小細胞癌 14 例では平均 30.6±21.2 ng/ml となり，71.8% の陽性率であった．また，臨床病期別では III, IV 期で陽性率が高く I, II 期では症例がほとんどなく (2 例)，結果を得ることができなかった．

20. 扁平上皮癌関連抗原 TA-4 RIA キットの検討

桂木 誠 一矢 有一 桑原 康雄
和田 誠 綾部 善治 松浦 啓一
(九大・放)
小宮 妙子 (同・中放)

TA-4 RIA キット(ダイナボット)の基礎的および臨床的検討を行った．基礎的検討では，回収試験において高濃度血清を添加した際に回収率がやや低下するもののおおむね良好な結果が得られた．健常成人 66 名の測定値は 1.2±0.5 (Mean±S.D.) ng/ml で 2.2 をカットオフ値とした．子宮頸癌全体では 53% (27/51) の陽性率であったが，2 期以上では 73% (16/22) の陽性率であった．また再発例では 73% (8/11) の陽性率であった．肺の扁平上皮癌では 71% (20/28)，食道癌では 47% (16/34) の陽性率であった．その他腟癌や皮膚癌，上顎癌にも高値を示す例がみられた．TA-4 は扁平上皮癌のマーカーとして有用であると思われた．

Presented by Medical*Online